
魔法少女リリカルなのは[dark side]

abs

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは「dark side」

【Nコード】

N4808BA

【作者名】

abs

【あらすじ】

ジェイル・スカリエッティによって、性的な必要性で生み出されたエターナルショタ。ドクターと学生プレイを強要され、彼が暗黒面へと落ちて行く。そして、彼が無垢な者たちへ牙を向き始める。話だったらいいな。

- - -
- - -
- - -
- - -

不定期更新！

1話 エターナルシヨタの目覚め「説明回」(前書き)

不定期更新

1話 エターナルシヨタの目覚め「説明回」

目覚めると、そこは秘密基地だった。

本当に秘密基地かどうかは、分からない。

が、周りは少し薄暗くて、スーツの上に白衣を着る人間がいて、ニヤニヤ笑っていて。

ああ、秘密基地なんだなあ、と思ったのだ。

「くくく、エターナルシヨタの完成だ！」

決めた、必ず出ていこう！

危なかった。

ドクターと呼ぶことを強制され、あのままだと特殊プレイに発展するところだった。

今は、かなり安全になった。

シヨタにしか興味を示さなかったドクターに対して、他の道もあることを指し示したのだ。

姉、妹、ロリ、無口、天然、双子に始まり、スパイ系、活発系、お嬢様、眼帯、ドジっ子、武道家、僕っ娘、女番長、下級生等といった派生的なものにまで、ドクターの興味を移させることができた。

だが、シヨタに興味がなくなったわけではない。
これ以上、お尻を気にして生活したくない。

幸いにも、傀儡兵の発送作業を任された。
自分もこの傀儡兵に紛れ込む。

送り先がドクターよりもマシであることを望む。

警備を任された。

傀儡兵の設定をする派遣員みたいなことを言っ
て、なんとか置いて貰えた。

緊急時には、ポッドに入っている子どもを警護する布陣だ。

雇い主であるテストロッサさんは、ドクターの研究を
発展させたいらしい。

ドクターへ取り次げなんて言われたくないから、
自分の出自は黙っておこう。

傀儡兵をドクターから買ったとは、気づいていない
ようだ。

異常が起こるまで、警備室で長い眠りに
ついていた。

目が覚めたので、現状確認をする。

テストロッサさんが、なんか荒れている。

大人しそうな子どもが、困惑している。

目が覚めたら、報告をする契約だ。

嫌だな、怖いな、と思いながら、
テストロッサさんへ会いに行つた。

テストロッサさんが荒れていた内容を聞き、
「当たり前じゃないか」と呟いたのがいけなかつた。

クローンを作り、同じ人間に仕上げる。

記憶を埋め込むなんて、生まれてきてから倒れる日までの記憶全てなんて、記録に残っているわけがないのだ。

今、埋めこまれた記憶は、親から見た子どもの記憶でしかない。親がいない間、他の人と出会った間。聞けば生後2年間は父親もいたらしいが、その記録に対して、自らの意思を込めずに、入れられたのか？

他にも、親が失敗した所の記憶は入れたのか？
生まれてから全てを記録し、そのまま入れなければ、違うものになるに決まっている。

テストロツサさんは、記憶を意図的に欠落させたり、子の全てを知らなかったりするので、この方法では無理だと悟ったみたいだ。

そんなこんなで生まれたフェイトさん。

今は魔法をうまく使っている。

テストロツサさんの子どもが飼っていた山猫を素体にした使い魔、リニスさんが今日もフェイトさんに魔法を教えているのだ。
フェイトさんが一人前になるまで、家庭教師をするらしい。

この2人が魔法を使うから、警備室でスリープ状態になることはできなくなった。

初動が遅くなるが、傀儡兵を自動で起動するようにした。

暇になったので、意味もなく見回りをしたり、レアスキルの次元跳躍をしたりしている。

ドクターが追ってくるかもしれないという悪夢から逃れるために、気がついたレアスキルだ。たとえば、どんなことがあるうとも逃げきる事ができる、はずだ。

テストロッサさんから、蘇生をするにはどうすればいいか聞かれた。見た目シヨタに聞くなり、心が疲れているようだ。

ドクターの研究室での知識から、高エネルギーの結晶体を使えばいいんじゃない、と答えておいた。

高エネルギーの結晶体って何だ？と自分でも思ったが、テストロッサさんには、心当たりがあつたみたいだ。納得できたみたいで、よかった。

次元跳躍で色々な所で遊んでいたら、リニスさんがいなくなっていた。

代わりにアルフさんがいた。

死病に侵されていたところを、フェイトさんに助けてもらったようだ。

「初めまして、フェイトさん、アルフさん」

遠くから眺めるだけで、実は話したことなかったんだよね。

「私は傀儡兵整備担当のラスティと言います」

ペデラスティ：年長男性による青少年への嗜好。

畜生！なんて名前だ！

お互いの自己紹介が終わって、警備室に戻る途中。テストロッサさんに出会った。

「ラスティ、あなたもフェイトと一緒にジュエルシードを盗ってきてもらったわ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4808ba/>

魔法少女リリカルなのは[dark side]

2012年1月13日02時49分発行